

令和7年  
2025年

1月10日  
金曜日

第11630号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



日本食肉流通センター3団体が新年賀詞交換会を開催……P4

CONTENTS

- ▶【今年の鶏価を占う】昨年は国産・輸入共に好調、今年国内生産前年並み……P2～3
- ▶「日本スタートアップ大賞2025」募集開始—農水省……P3
- ▶日本食肉流通センター3団体が新年賀詞交換会……P4
- ▶しゃぶ禅で「福島牛食べ放題」、「地産都消」で生産者支援に貢献……P4
- ▶日本食鳥協会が新年賀詞交歓会開催、鈴木俊一議長顧問らが祝辞……P5
- ▶伊藤ハム米久HDが経産省が認定する「DX認定事業者」に選定……P5
- ▶[鶏肉調製品輸入11月]計4万6192tで0.9%減……P6
- ▶包装関係11団体が合同新年会を開催、多くの関係者が新年祝う……P6
- ▶米国2024年12月1日現在豚総飼養7585万頭、前年同期比微増……P7
- ▶J.S.BURGERS CAFE「ビッグカツバーガー」発売……P7
- ▶[輸入牛現物相場]フローズンは豪州産トリミングが高騰……P8
- ▶[プロイラー市中現物相場]国産冷凍物、品薄感から一段高……P8
- ▶【役員人事・人事異動】スターゼン(4月1日付)……P8
- ▶[資料]日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉……P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]9日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]9日……P11

## 注目のヘッドライン

【今年の鶏価を占う】鶏肉消費量は昨年比でやや増加か、生産・輸入量は前年並み

…詳細はP2～3

日本食肉流通センター3団体が新年賀詞交換会

…詳細はP4

りんご和牛  
信州牛  
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉  
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する  
ビセラル株式会社

〒123-0864 東京都足立区鹿浜 1-10-20  
営業1課 / ☎(03)3899-2374(代) FAX(03)3857-2706  
総務 / ☎(03)3853-4411(代) FAX(03)3899-4119

<http://www.visceral.co.jp>

## 【今年の鶏価を占う】 鶏肉消費量は昨年比でやや増加か、生産・輸入量は前年並み

国内の飼養鶏における高病原性鳥インフルエンザは、2023年度のシーズン(23~24年の秋冬)には10県で11事例が確認され、約85万6千羽が殺処分された。そのうち、肉用鶏農場での発生は3事例で、殺処分数は約6万3千羽だった。全国規模で見れば、過去最大となった22年シーズン(飼養鶏全体で約1771万羽が殺処分)と比較して甚大な被害とはならなかった。

24年の年始、1月の日経相場では生鮮モモがキロ当たり700円前後、ムネ380円前後と、モモが前年同月比で約100円安、ムネが約40円安。農水省の「食鳥市況」でも、モモ729円(前年同月比10・9%安)、ムネ396円(7・5%安)と落ち着いたスタートを切った。

コロナ禍からの立ち直りと価格優位性から輸入鶏肉の需要も増しており、輸入量も前年を上回って推移したが、6月はブラジル産地の洪水もあり、14・4%減と落ち込んだ。

鳥インフルエンザの影響が少なかったことから、国内の鶏肉生産量は24年を通じておおむね前年を上回った。8月のみ前年割れとなっているのは、酷暑による増体不良などにより減産したためだ。また、9月上陸した台風10号により、産地によっては物流の停滞、停電の被害などもみられた。

一方で、円安と飼料、資材、エネルギーなどの高騰から、生産、流通におけるコスト高が続いた。

海外からの研修・実習生を含め、生産現場の深刻な人手不足は続いており、年間を通じてハラミ、コニクなどの副産品の出荷量は正肉と比較して低調だった。

今年の鶏肉需給量についてはやや増加するものと予測する。人口が減少する中であっても、05年に10・5kgだった1人当たりの年間消費量(純食料ベース)については、24年に約14・4kgと増加傾向にある。増加基調に加え、コロナ禍からの立ち直りで、インバウンドを含めた人の動きが活発化し、イベントがより高頻度となるため中食、外食での需要が増加する。また、他の畜種より安価という価格優位性と低脂肪高タンパクなヘルシーさもある。仮に景気が急減速する

ような局面があっても、また、俗に「胃袋が縮小する」といわれるような現況の高齢化による1人当たり摂取量の全体的な低下も、輸入も含めた鶏肉需給全体については追い風にこそなれ、逆風にはならない。

【国内生産】国内の生産については、生産大手などもおおむね前年並みを見込んでいる。「需要は上向いていても、産地の人手不足などもあり、急な増産はできず、順調にいつて24年並み」としている。一方で高病原性鳥インフルエンザが24年末時点で22年シーズンに匹敵する件数発生しているため、1~3月については24年に比べ微減と考える。

また、昨年8月に酷暑による増体不良などのために減産がみられたが、ことしも暑さ、台風のリスクについては起こり得ることとして試算し、8月は24年度並みとみる。

【輸入鶏肉】輸入量は増加すると考える。25年の為替動向については「1ドル150円前後で推移する」と分析する専門家も多く、そうであれば、輸入品の環境的には一時160円を超えた24年よりは若干良くなる。

また、中国が国産鶏肉の増産を図っている過程にあり、同国が不動産を引き金とした景気減速にあることも、輸入にとっては買い負ける可能性が低下するという意味で、日本のブラジル、タイにおける鶏肉調達に有利に働く。

中国が不景気になって輸入鶏肉を食べる量が大幅減に陥るということではなく、実需以上の爆買いは減少する。イメージでいえば、食べ切れないほどの輸入がなくなり、食料残さ率などが低下する。

日本もかつて「生産・輸入される食品の半分がごみになる」といわれたほどバブル期には大量の食物残さを出していたが、消費の成熟、景気の悪化、政府広報も功を奏して徐々に少なくなっていく。中国もその過程にあるのではないかと。

農畜産業振興機構によれば、中国の鶏肉生産量は「繁殖技術や疾病の予防と制御などの推進により、生産性が向上することで、33年の家禽肉生産量は2905万t(基準期間比<21~23年の平均値との増減率>18・0%増)と予測されている」としている。中

国だけが鶏肉輸入の競合相手ではないが、少なくとも札幌を切って相場を釣り上げるような局面は減少する。

前述したように、消費量の増加と国産鶏肉生産量の伸び悩み、コロナ禍からの反動で輸入鶏肉の需要は増加する。主要な生産国での大規模な鳥インフルエンザの発生、24年のブラジルの洪水を超えるような災害など、危ぐされる点もあるものの、日本国内の輸入鶏肉相場は世界的なインフレ基調にあっても、おおむね24年を下回って推移すると考える。

2025年の鶏肉需給の特長は次のとおり。

【国産・輸入共】物価高騰もあり、鶏肉消費全般には追い風。1人当たりの年間消費量は過去最大だった22年の14・6kgに近い水準に。

【国産】1～3月の国内生産量は高病原性鳥インフルエンザの影響により24年を下回って推移。肉用鶏農場での発生が多ければ、23年を下回る可能性も。

需要増と生産の伸び悩みから、国産生鮮モモ、国産生鮮ムネとも相場は24年を上回って推移する。特に生鮮ムネは年間を通じて日経相場で400円に近い水準で推移。

8月の酷暑による減産、また9月以降の台風による被害は24年並みと考える。したがって、最需要期(25年晩秋～26年初頭)の国産冷凍モモは24年同様、品薄と予測する。

【輸入】輸入鶏肉需要は24年を上回って推移。気

候変動による災害、鳥インフルエンザのまん延の可能性は否めないが、ブラジルからの輸入量に24年6月の洪水のように大幅に落ち込む要因がなければ、比較的需要の薄い夏～秋に、タイ産の輸入が突出して増加するようなことにはならない。

鶏肉生産量と輸入量の推移(単位:トン、%)

年月	生産量	前年比	輸入量	前年比
23年1	137,186	99.8	44,361	82.5
2	133,697	98.5	47,115	95.0
3	143,098	99.4	47,545	105.3
4	139,494	98.7	47,412	108.8
5	142,670	102.6	51,717	121.7
6	141,558	100.7	57,706	110.6
7	133,465	100.2	46,686	102.3
8	133,703	100.4	55,955	118.1
9	135,797	100.3	48,372	103.4
10	145,552	100.5	47,805	88.6
11	146,801	101.8	39,181	78.7
12	155,398	101.5	50,981	115.1
23年計	1,688,419	100.2	584,837	101.0
24年1	140,093	102.0	54,687	123.3
2	144,552	108.0	55,395	117.6
3	143,802	100.4	52,670	110.8
4	146,411	104.8	52,006	109.7
5	147,168	103.0	53,259	103.0
6	143,169	101.0	49,373	85.6
7	139,722	104.5	51,778	110.9
8	130,029	97.3	56,697	101.3
9	135,916	100.1	49,125	101.6
10	147,681	101.5	62,323	130.4
11	145,640	99.2	51,050	130.3
12	150,000	96.5	52,580	103.1
24年計	1,714,183	101.5	640,945	109.6
25年1	136,791	97.5	47,410	86.6
2	141,806	98.1	60,944	110.0
3	142,652	99.2	53,723	102.0
4	146,411	100.0	52,006	100.0
5	147,168	100.0	53,259	100.0
6	143,169	100.0	56,779	115.0
7	139,722	100.0	51,778	100.0
8	130,029	100.0	56,697	100.0
9	135,916	100.0	51,581	105.0
10	147,681	100.0	69,207	100.0
11	145,640	100.0	51,050	100.0
12	150,000	100.0	52,580	100.0
22年計	1,706,985	99.6	657,014	102.5

農畜産業振興機構「畜産物(食肉)の需給予測及び需給動向」、日本食肉輸出入協会「鶏肉輸入量予測」などから作成

## 「日本スタートアップ大賞 2025」募集開始ー農水省

農水省は8日、「日本スタートアップ大賞2025」の対象となる農林水産業・食品産業分野のスタートアップの募集を開始した。

「日本スタートアップ大賞」は、次世代のロールモデルとなるような、インパクトのある新事業を創出した起業家やスタートアップを表彰したたえる制度。起業を志す人々や社会に対し、積極的に挑戦することの重要性や起業家一般の社会的な評価を浸透させ、もって社会全体の起業に対する意識の高揚を図るこ

とを目的としている。自薦・他薦ともにあり、応募された案件の中から有識者らから成る審査委員会が受賞企業を決定する。

このうち、農業スタートアップ賞(農林水産大臣賞)は、農林水産分野におけるイノベーションの創出や農林水産業の発展に対する寄与などに関し、評価の高い企業に対して授与される。応募締め切りは2月12日。応募方法=<https://www.pwc.com/jp/ja/news-room/meti-startup2025.html>

## 日本食肉流通センター3団体が新年賀詞交換会

公益財団法人日本食肉流通センター(川合靖洋理事長=写真)、日本食肉流通センター卸売事業協同組合(三留晃理事長)、日本食肉流通センター川崎冷蔵事業協同組合(同)は9日、3団体合同で神奈川県川崎市のセンターG棟で令和7年新年賀詞交歓会を開催した。

主催者を代表して川合理事長があいさつ。「昨年の正月は、能登の震災、航空機の衝突事故で幕を開けた。ことしは落ち着いた正月になるかなと思ったが青森をはじめとして災害級の大雪となった」

「ご存知のとおり、和牛の格付は4~5等級合わせで9割以上になる。高級牛肉の供給量は増えているが、消費は追いついていない。さらに為替の問題があり、飼料は高止まりし、輸入肉の仕入価格も高いつらい1年となった。農水省は6年度補正予算で和牛需要拡大対策を一昨年の3倍となる170億円に増やした。需要対策が効果を発揮し、また、日本の景気が良くなり、皆さんの懐具合が良くなり和牛を消費してもらえらる1年になったらうれしい。為替も落ち着き飼料価格、食肉価格が下がり、年末から鳥インフルが開始しているが、これ以上家畜伝染病も出ない年になればさらにうれしい」

「昨年、農基法が25年ぶりに改正され、今年も『酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針』や家畜改良増殖目標が改定される節目の年となる。食肉関係者にとって良い年になるよう期待す



る」と述べた。

続いて、卸売事業協同組合の小川晃弘副理事長が「インバウンドの国内需要は伸びているものの、まだ国内の消費マーケットでは財布のひもは固く、和牛・国産の消費は、引き続きなかなか厳しい1年になるのではないかとと思われる。令和7年度に向けて、国が行う生産対策や流通消費対策の補助事業の仕組みに当組合は参加することになっている。競り場に活気が戻るように願っている。今年も畜産フェアを開催する。多くの来場者が楽しめるよう知恵を出したいと考えている」とあいさつ。乾杯の音頭を取り、歓談に移った。

その後、来賓を代表して農水省畜産局食肉鶏卵課食肉需給対策室の上田泰史室長、福田紀彦川崎市長、(独)農畜産業振興機構の瀬島浩子副理事長が祝辞。神奈川県肉連の上野好一会長が中締めを行った。

## しゃぶ禅で「福島牛食べ放題」、**“地産都消”**で生産者支援に貢献

しゃぶ禅(東京都新宿区、菅野雄介社長)は15日~2月14日、首都圏や大阪、九州で展開するしゃぶしゃぶ・すき焼き専門店「しゃぶ禅」(一部店舗を除く)で「福島牛食べ放題」をお得な特別価格で提供する。

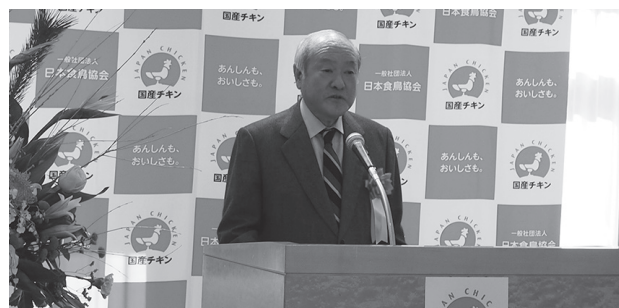
同店では、日本各地の個性ある銘柄牛を特別価格の食べ放題で楽しめる企画を実施してきた。昨年は、徳島県の「とくしま三ツ星ビーフ・阿波牛」、熊本県の「あか牛」、岐阜県の「飛騨牛」、鹿児島県の「鹿児島

黒牛」などの食べ放題特別企画を実施している。今回は「福島牛」に注目し、食べ放題企画を実施。通常1万2千円(税込み)のところ、特別価格の9800円で提供する。「福島牛」は、福島県内で飼育・生産されている肉牛の、脂肪交雑や肉のキメなどに優れた黒毛和牛のみ名乗ることができるブランド。「福島牛」の脂はオレイン酸を多く含み融点が低いため、口どけがよく、さっぱりとした甘みのある味わいが特長で、野菜などほかの食材との相性も良い。

## 日本食鳥協会が新年賀詞交歓会開催、鈴木俊一議連顧問らが祝辞

一般社団法人日本食鳥協会(佐藤実会長=上写真)は9日、東京都千代田区のLEVEL XXI東京會館で令和7年新年賀詞交歓会を開催した。冒頭のあいさつで佐藤会長は「高病原性鳥インフルエンザも前シーズンを上回るペースで発生しており、予断を許さないが、今年も生産はおおむね順調に推移するものと考えている。昨年はモモ肉の消費についてはやや苦戦をし、ムネ肉は1年を通じて需要が高かった。一因として気候変動の影響から春秋の気温が高く、従来の季節感と異なる消費の動きがあった。協会では、消費者のニーズにより合致した、簡便なメニュー提案や鶏総菜の商品化などを行っていく。この冬は寒さが厳しいこともあり、牛肉、豚肉と比較してもコストパフォーマンスの高い鍋メニュー『鶏すき焼き』の提案を強めていきたい。技能実習生については従来の処理施設などだけでなく生産農場でも活躍してもらえよう、また、銘柄鶏の輸出拡大などについても業界を挙げて働きかけを行っていく」と述べた。

来賓からは自民党総務会長で国産食鳥産業議員連盟顧問(前会長)の鈴木俊一衆議院議員(下写真)が「温暖化の影響もあり、渡り鳥のルートが変わるなど鳥インフルエンザ対策もより高いレベルが求め



られており、業界のご苦労とご尽力に敬意を表したい。国産食鳥産業議員連盟も森山裕現会長、江藤拓幹事長と農政のエキスパートをトップに据えた布陣となり、今後も業界の振興について万全のバックアップを行っていく」とあいさつで述べた。農水省畜産局の松本平局長、厚労省健康・生活衛生局食品監視安全課の森田剛史課長が祝辞を述べ、佐伯裕志副会長が乾杯の音頭を取って、和やかな懇談に移った。

## 伊藤ハム米久HDが経産省が認定する「DX認定事業者」に選定

伊藤ハム米久ホールディングスはこのほど、経産省が定める「DX認定制度」に基づく「DX認定事業者」としての認定を取得した。

今回取得した「DX認定制度」とは、情報処理の促進に関する法律に基づき、デジタルによって自らのビジネスを変革するためのビジョン・戦略・体制などが整った企業を国が認定する制度。同社グループは、デジタル技術を活用し業務プロセスの効率化や新たなビジネスモデルの構築を進めており、具体的にはIT基盤整備に取り組むとともに、業務生産性向上に向けた取り組みやデータ活用の基盤構築、またAI、IoT化した高効率工場の建設予定などの取り組みを行い、DX推進施策として評価され、認定された。



同社グループでは長期経営戦略2035において「DXによる効率化・変革」を掲げており、「長期的課題の一つである国内の就労人口漸減や、各種課題解決にDXを活用することで、業務効率化と売上向上を同時に達成していく。また、今回の認定を契機にさらなるDX推進を図り、ステークホルダーの皆さまに新たな価値を提供していく」としている。

## [鶏肉調製品輸入 11月] 計4万6192 tで0・9%減

11月の鶏肉調製品の輸入通関実績は、計4万6192t(前年同月比0・9%減)と前年を下回った。前月からも1710t減少した。国別ではタイが2万7千

t(1・3%減)と減少。中国は1万8464t(0・2%増)と増加した。そのほか韓国が119t(48・1%減)となった。

鶏肉調製品輸入の推移

	単位:トン、( )内は前年比%						
	中国	タイ	ブラジル	韓国	米国	フィリピン	合計
2022年計	192,373 (109.3)	326,751 (109.3)	1,925 (110.6)	1,028 (93.3)	117 (55.8)	33 (71.4)	525,762 (109.4)
2023年計	173,673 (90.3)	297,810 (91.1)	558 (29.0)	1,201 (116.8)	100 (85.5)	0 (-)	477,983 (90.9)
2023年11月	18,423 (116.6)	27,345 (102.7)	- (-)	229 (236.5)	- (-)	- (-)	46,607 (108.2)
12月	16,518 (110.3)	26,952 (108.2)	139 (146.7)	102 (75.2)	14 (-)	- (-)	44,292 (109.6)
2024年1月	13,238 (110.4)	21,717 (99.7)	76 (66.7)	94 (131.7)	- (-)	- (-)	35,688 (104.1)
2月	11,064 (120.0)	22,790 (101.6)	19 (26.0)	72 (63.0)	- (-)	- (-)	34,339 (107.0)
3月	13,221 (88.9)	24,460 (96.5)	19 (100.0)	57 (118.7)	14 (-)	- (-)	38,329 (94.5)
4月	16,788 (114.1)	27,086 (109.6)	38 (100.0)	150 (385.2)	0 (-)	- (-)	44,648 (111.9)
5月	14,034 (113.5)	26,117 (115.2)	38 (99.6)	65 (206.2)	- (-)	- (-)	40,776 (115.0)
6月	15,546 (100.1)	26,467 (111.2)	19 (100.0)	23 (52.2)	14 (-)	- (-)	42,605 (107.2)
7月	19,023 (127.4)	27,823 (116.0)	94 (123.7)	33 (116.4)	- (-)	- (-)	47,452 (120.2)
8月	14,464 (99.9)	24,641 (96.7)	38 (100.0)	60 (165.2)	- (-)	- (-)	39,797 (98.6)
9月	16,795 (112.3)	22,519 (88.9)	56 (892.6)	65 (82.7)	14 (-)	- (-)	39,880 (97.7)
10月	17,078 (114.2)	29,949 (118.2)	76 (-)	135 (170.6)	- (-)	- (-)	47,902 (117.4)
11月	18,464 (100.2)	27,000 (98.7)	- (-)	119 (51.9)	14 (-)	- (-)	46,192 (99.1)

## 包装関係 11 団体が合同新年会を開催、多くの関係者が新年祝う

包装関係の11団体(公益社日本包装技術協会、一般社東京包装協会、一般社日本食品包装協会、軟包装衛生協議会、日本MH協会、東日本梱包工業組合、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、日本包装専士会、技術士包装物流会、日本包装学会)の関係者が一堂に会して賀詞を交歓し、懇親を深める2025年包装界合同新年会が8日、東京都千代田区の東京會館で開催された。会場には会員企業をはじめ、多くの包装業界関係者が参加した。

主催者を代表してあいさつした日本包装技術協会の大塚一男会長(東洋製罐グループホールディングス(株)社長=写真)は昨年を振り返り、「円安をはじめとするさまざまな要因による原材料やエネルギー価格の高騰がコストアップを引き起こし、それがサプライチェーン全体に影響を及ぼすだけでなく、食品や日用品など、私たちの生活必需品にまで影響を与えている」と指摘。さらに「企業の人手不足が進んでおり、AIやIoTなどの導入による次世代技術の活用、各分野における一層の技術革新や人材育成等によって、限られた人材の効果的な活躍を促し、生産性を大幅に向上させなければならない。これによる生産性

向上が賃金上昇や消費喚起などにつながる正のスパイラルを推進させるための原動力となる。世界の包装市場は開発途上国の経済発展および人口増の流れもあって、今後さらなる成長が期待



される。先を見据えた変革と対応により国際競争力を加速させることで、国民生活をより豊かにするものと確信している」と述べた。さらに今年度の事業活動方針の柱として「包装産業の知名度の向上と就労機会の創出」を挙げ、「多様なバックグラウンドを持つ人たちに包装産業の魅力を伝え、就労機会を増やして人手不足緩和の試みを行い、さらなる包装産業の成長を促進していく」とした。

続いて来賓からは経産省製造産業局素材産業課の西川康文課長補佐が祝辞を述べ、さらに日本包装技術協会の猪野薫副会長(DIC(株)会長)の音頭で乾杯となり、歓談となった。

## 米国2024年12月1日現在豚総飼養7585万頭、前年同期比微増

米国農務省はこのほど、2024年12月1日現在の豚飼養動向調査を発表した。それによると、総飼養頭数は7584万5千頭(前年同期比0.5%増)。繁殖用雌豚は600万4千頭(0.1%増)、肥育豚は6984万1千頭(0.5%増)と増加した。

また、肥育豚の重量別では50ポンド以下2183万4千頭(1.2%増)、50~119ポンドは1942万6千頭(1.4%増)、120~179ポンドは1482万4千頭(0.6%減)、180ポンド以上は1375万7千頭(0.5%減)となっている。

繁殖母豚の12~2月は292万9千頭(0.8%減)と微減。以降は3~5月が291万3千頭(1.0%減)、12~5月が584万1千頭(0.9%減)、6~8月が302万4千頭(0.1%減)、9~11月が295万5千頭(0.2%減)、6~11月が597万9千頭(0.2%減)とそれぞれ減少。また、離乳子豚頭数の12~2月は3375万6千頭(3.7%増)、3~5月は3366万1千頭(0.7%増)、12~5月は6741万7千頭(2.2%増)、6~8月は3543万7千頭(0.9%増)、9~11月は3523万8千頭(2.0%増)、6~11月は7067万5千頭(1.4%増)。さらに1腹あたり子豚産子数の12~2月は4.6%増、3~5月は1.8%増、12~5月は3.1%増、6~8月は0.9%増、9~11月は2.2%増、6~11月は1.5%増とそれぞれ増加となっている。

州別飼養頭数ではアイオワ州が最も多い2460万頭(1.6%減)。以下ミネソタ州が950万頭(2.2%増)、ノースカロライナ州が820万頭(3.8%増)、イ

リノイ州が560万頭(1.8%増)、インディアナ州が445万頭(1.1%減)、ネブラスカ州が365万頭(3.9%減)、ミズーリ州が350万頭(12.9%増)、オハイオ州が270万頭(3.8%増)と続く。

米国豚飼養頭数と動向 単位・千頭(6月1日調査)

12月1日現在	2023	2024	前年比
総頭数・種雄含む	75,461	75,845	100.5%
繁殖用雌豚頭数	5,999	6,004	100.1%
肥育豚飼養頭数	69,463	69,841	100.5%
○重量別肥育豚頭数			
50ポンド以下	21,571	21,834	101.2%
50~119ポンド	19,154	19,426	101.4%
120~179ポンド	14,908	14,824	99.4%
180ポンド以上	13,829	13,757	99.5%
○繁殖母豚頭数			
12月~2月	2,952	2,929	99.2%
3月~5月	2,941	2,913	99.0%
12月~5月	5,893	5,841	99.1%
6月~8月	3,026	3,024	99.9%
9月~11月	2,962	2,955	99.8%
6月~11月	5,988	5,979	99.8%
○離乳子豚頭数			
12月~2月	32,537	33,756	103.7%
3月~5月	33,414	33,661	100.7%
12月~5月	65,951	67,417	102.2%
6月~8月	35,134	35,437	100.9%
9月~11月	34,537	35,238	102.0%
6月~11月	69,671	70,675	101.4%
○1腹あたり産子頭数			
12月~2月	11.02	11.53	104.6%
3月~5月	11.36	11.56	101.8%
12月~5月	11.19	11.54	103.1%
6月~8月	11.61	11.72	100.9%
9月~11月	11.66	11.92	102.2%
6月~11月	11.64	11.82	101.5%
○州別上位飼養頭数			
アイオワ州	25,000	24,600	98.4%
ノースカロライナ州	7,900	8,200	103.8%
ミネソタ州	9,300	9,500	102.2%
イリノイ州	5,500	5,600	101.8%
インディアナ州	4,500	4,450	98.9%
ミズーリ州	3,100	3,500	112.9%
ネブラスカ州	3,800	3,650	96.1%
オハイオ州	2,600	2,700	103.8%

## J.S. BURGERS CAFE 「ビッグカツバーガー」発売

(株)バイクルーズ(東京都渋谷区、杉村茂社長)が運営する、アメリカンスタイルのハンバーガーショップ「J.S. BURGERS CAFE」は、(株)すぐるの「ビッグカツ」とコラボレーションし、さらにビッグなサイズの商品を使用した「ビッグカツバーガー」(税込み1485円)を、2月23日まで期間限定販売している。

店舗で調理した、揚げたてのビッグカツのサクサクパリパリとした食感がクセになり、さらに濃厚なチェ

ダーチーズやカレーマヨ、ビーフパティとの相性は抜群で、添えられたカレーソースをつけて食べると、スパイスの風味が食欲をより引き立ててくれるハンバーガーに仕上がっている。



## 【輸入牛現物相場】 フロースンは豪州産トリミングが高騰

豪州産チルドは、年末までの状況と変わらずモモ系とスソ物の動きが良い。欠品が発生しているアイテムはグレードを変えて提案しているが、恒常的な通関遅れの影響から逼迫感も強まっている。米国を中心に、豪州産牛肉の需要は高く、相場高が続く見通しだ。米国产ではショートプレート、チャックアイロールに引き合いがある。しかし、現地のと畜頭数が引き続き低迷していること、円安の影響などからコストは高まっている。また、末端顧客が国産牛や他畜種への

	チルド	フロースン
米		
スクウェアカットチャック	—	—
ショルダークロッド	1,600 ~ 1,700	1,500 ~ 1,600
ショートプレート	1,300 ~ 1,350	1,250 ~ 1,350
ボンレスショートトリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	—
ボンインショートトリブ	—	—
国		
チャックリブ(チョイス)	3,250 ~ 3,510	—
ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	—
リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	—
産		
テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	—
ステーキレディ	—	—
チャックアイロール(チョイス)	2,230 ~ 2,250	1,700 ~ 1,850
同(プライム)	2,450 ~ 2,500	2,100 ~ 2,300

切り替えを検討することも多くなっている。

豪州産フロースンではトリミング材の需要が高まり、平時500円台のアイテムが700円台まで高騰。フロースン全体では価格が売価に見合わず停滞感が強い。

【輸入牛肉現物相場】 円/キロ

		グラス	ショートグレイン
豪州産	豪		
	州		
	産		
	トップサイド	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,420
	シックフランク	1,250 ~ 1,300	1,300 ~ 1,420
	アウトサイド	1,250 ~ 1,300	1,300 ~ 1,380
	ポイント	1,300 ~ 1,350	1,350 ~ 1,400
	ナーベル	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,400
	ランプ	1,600 ~ 1,700	1,680 ~ 1,900
	クロッド	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,450
C	チャックロール	1,400 ~ 1,450	1,500 ~ 1,600
	チャックテンダー	1,300 ~ 1,350	1,400 ~ 1,450
	キューブロール	2,600 ~ 2,800	3,600 ~ 3,970
	ストリップロイン	1,900 ~ 2,000	2,150 ~ 2,550
	テンダーロイン	4,300 ~ 4,400	4,500 ~ 4,800
豪州産	豪		
	州		
	産		
	チャック&ブレード	—	—
	ポイント	1,150 ~ 1,250	—
F	ナーベル	1,200 ~ 1,250	—
	カウミート	980 ~ 1,200	—
	トップサイド	1,200 ~ 1,350	—
	シックフランク	—	—

## 【ブロイラー市中現物相場】 国産冷凍物、品薄感から一段高

◇国産物 生鮮モモは日経加重平均740円前後と年末との比較ではやや値を下げているものの、正月の休みの影響と一部産地での増体不良もあり、物量的にはタイトで動きも良い。冷凍物もモモ、ムネ、手羽モトは、引き合いの高さから値を上げている。

◎国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	710~730
ムネ正肉(〃)	400~420
手羽モト(〃)	450中心
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	420~450

◇輸入物 ブラジル産、タイ産、モモ正肉、カット物はおおむねもちあいだが、春の行楽シーズンを前にやや先高観が出た。米国产ボンインレッグは米国内

◎輸入物	単位: 円/キロ
米国产モモ正肉(240g UP)	460中心
米国产ジャンボレッグ(350g UP)	350中心
米国产B I L	470~490
ブラジル産モモ正肉	360~380
ブラジル産モモ角切り	450~460
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	510中心
ブラジル産手羽サキ(50g UP)	600中心
タイ産モモ正肉	430中心
タイ産モモ角切り(25~30g)	490中心
米国产モモ串	玉なし

の需要が堅調なことから輸入量が少なく、年末から高値を維持している。

## 【役員人事・人事異動】 スターゼン(4月1日付)

【執行役員の異動】 執行役員兼(株)丸全代表取締役社長(執行役員製造本部長) 柄澤達也

【人事異動】 製造本部長(物流本部長) 小池公一

▷物流本部長兼物流部長(物流本部物流部長) 菅原泰治

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和6年12月15日～12月21日)

(単位：キロ当たり円、税込み、重量kg)

和牛チルド「4等級」		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量		
		首都圏	カタロース	4,699	4,917	5,628		4,969	13,733	近畿圏	3,672	4,166	4,644	4,215
	カタ	3,723	4,158	4,503	4,177	15,961		3,667	3,807	4,212	3,836	13,476		
	カタバラ	2,160	3,532	4,548	3,401	3,704		2,134	2,292	2,887	2,278	1,944		
	ヒレ	-	-	-	-	553		-	-	-	-	-		
	ロイン	7,776	9,828	11,690	9,728	3,691		8,640	9,720	10,322	9,689	3,096		
	ロインセット	5,940	6,912	8,369	7,129	6,179		5,400	5,994	6,696	6,081	5,878		
	トモバラ	6,394	6,501	6,787	6,496	3,296		-	-	-	-	-		
	ウチモモ	1,836	2,289	3,275	2,366	16,870		1,858	2,508	3,240	2,571	12,528		
	シントマ	4,320	4,639	5,120	4,703	9,167		3,776	4,104	4,320	4,109	3,414		
	ランイチ	4,104	4,320	4,968	4,324	8,433		3,811	4,104	4,428	4,123	3,315		
	ソトモモ	4,104	4,320	4,968	4,373	7,195		3,930	4,104	4,428	4,141	3,608		
	スネ	3,564	3,888	4,428	3,958	7,380		3,578	3,620	3,872	3,657	2,061		
	モモセット	1,968	2,155	2,322	2,181	8,900		1,966	1,970	2,160	2,000	4,884		
	セット	3,794	4,104	4,202	4,086	30,710		3,682	3,780	3,834	3,769	21,157		
	重量合計	3,716	4,061	4,605	4,090	45,720		3,564	3,820	3,996	3,825	17,750		
	重量合計						181,492							106,281
中京圏	カタロース	3,547	3,885	5,184	4,216	1,344	九州圏	3,996	4,320	4,752	4,404	2,118		
	カタ	3,588	4,104	4,536	4,152	2,604		3,348	3,888	4,104	3,763	1,639		
	カタバラ	2,592	3,073	3,186	2,951	1,610		-	-	-	-	688		
	ヒレ	-	-	-	-	895		-	-	-	-	-	540	
	ロイン	5,562	5,562	6,696	5,882	1,655		-	-	-	-	-	292	
	トモバラ	1,728	2,052	3,240	2,111	3,206		1,836	1,836	4,126	2,620	1,807		
	ウチモモ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	629	
	シントマ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	658	
	ランイチ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	392	
	ソトモモ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	458	
	スネ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	704	
	モモセット	3,888	4,104	4,784	4,256	4,654		-	-	-	-	-	-	
	セット	3,702	3,759	3,759	3,731	13,384		3,499	3,858	4,055	3,824	10,913		
重量合計						29,352						20,838		

(令和6年12月15日～12月21日)

交雑牛チルド「3等級」		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量	
		首都圏	カタロース	3,082	3,264	3,791		3,263	19,606	近畿圏	2,916	3,024	3,367
	カタ	2,446	2,700	2,913	2,664	11,178		2,422	2,539	2,851	2,611	14,549	
	カタバラ	2,350	2,740	2,889	2,652	3,576		1,459	1,512	2,067	1,634	4,170	
	ヒレ	5,648	6,464	6,696	6,255	4,500		6,324	6,795	7,020	6,719	4,935	
	ロイン	4,822	5,009	5,400	4,944	6,294		4,482	4,860	4,864	4,805	10,627	
	トモバラ	1,631	3,111	3,401	2,883	13,579		1,512	1,566	1,874	1,590	13,665	
	ウチモモ	2,484	2,700	2,862	2,682	11,395		2,484	2,576	2,646	2,546	8,654	
	シントマ	2,484	2,678	2,970	2,678	6,197		2,484	2,592	2,700	2,583	8,654	
	ランイチ	2,407	2,700	2,985	2,715	4,952		2,484	2,581	2,700	2,574	8,857	
	ソトモモ	2,160	2,268	2,457	2,324	3,484		2,268	2,424	2,499	2,425	8,167	
	スネ	1,508	1,566	1,705	1,579	4,214		1,512	1,628	1,855	1,616	9,026	
	モモセット	-	-	-	-	-		2,609	2,675	2,873	2,749	10,746	
	セット	2,752	2,927	3,348	3,003	43,403		2,884	3,132	3,208	3,117	54,267	
	重量合計						132,378						174,850

乳牛チルド「3等級」		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量	
		首都圏	カタロース	2,905	2,953	3,132		2,979	7,903	近畿圏	2,554	2,754	3,240
	カタ	1,674	2,182	2,182	2,136	2,085		1,615	1,782	1,979	1,769	5,868	
	カタバラ	1,382	1,382	1,447	1,407	1,152		-	-	-	-	-	
	三角バラ	-	-	-	-	-		2,404	2,624	3,456	2,821	1,526	
	ブリスケット	-	-	-	-	-		1,188	1,220	1,296	1,226	3,409	
	ヒレ	4,962	5,250	5,400	5,225	2,795		4,860	5,400	5,940	5,329	4,410	
	ロイン	3,104	3,456	3,492	3,403	1,903		2,716	3,218	3,672	3,261	9,001	
	トモバラ	1,242	2,321	2,697	2,377	5,984		1,134	1,413	2,292	1,549	6,839	
	ウチモモ	2,155	2,281	2,663	2,371	5,784		1,890	1,944	2,160	1,974	9,897	
	シントマ	2,071	2,160	2,160	2,159	3,084		1,728	1,836	2,009	1,825	2,548	
	ランイチ	1,944	2,160	2,160	2,092	3,794		1,836	1,887	2,160	1,957	4,977	
	ソトモモ	1,814	1,890	2,082	1,923	1,834		1,836	1,836	2,268	1,923	5,053	
	スネ	1,458	1,502	1,512	1,493	4,034		1,404	1,512	1,575	1,501	6,691	
	セット	2,405	2,405	2,538	2,446	14,214		1,696	1,900	1,944	1,838	24,304	
	重量合計						54,566						92,476

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 1月9日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 89頭	高値	3,762	2,411	2,237	-	-
		安値	2,052	2,179	1,943	-	-
		平均	2,573	2,293	2,140	1,512	-
	雌 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,918	-	-	-	-
	去 A 167頭	高値	3,076	2,398	2,337	-	-
		安値	2,269	2,052	2,112	-	-
		平均	2,537	2,290	2,183	-	-
	去 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	2,067	-	-
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 29頭	平均	2,057	1,667	1,529	1,437	
		頭数	1	6	16	6	
	雌 C 3頭	平均	-	1,525	-	1,337	
		頭数	-	1	-	2	
去 B 34頭	平均	-	1,738	1,559	1,492		
	頭数	-	10	15	9		
去 C 4頭	平均	-	-	1,491	1,383		
	頭数	-	-	2	2		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	391 402	1,137 1,035	- 162.0	(競り)	(相対)	60

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,534	1,525	1,515	1,170	-
	B	-	-	1,406	1,230	809
和 去	A	2,468	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	908	850
	C	-	-	-	845	783
乳 去	B	-	-	-	1,134	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,628	1,509	1,398	-
	C	-	-	1,433	1,268	-
交 去	B	-	1,641	1,489	-	-
	C	-	1,425	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	861	839	731	652	636
	安値	632	605	597	432	151
	平均	719	639	618	603	468
	頭数	( 10)	( 353)	( 392)	( 119)	( 161)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-

[大阪食肉卸売市場] 1月9日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,553	2,161	2,100	-	-
(頭数)	( 12)	( 1)	( 2)	( -)	( -)
B	-	2,210	-	-	-
(頭数)	( -)	( 1)	( -)	( 1)	( -)
和 去 A	2,490	2,198	2,016	-	-
(頭数)	( 25)	( 9)	( 3)	( -)	( -)
B	2,160	-	-	-	-
(頭数)	( 1)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,942	1,711	1,620	1,514	-
C	-	-	1,593	-	-
交雑去 B	-	1,723	1,643	1,590	-
C	-	1,684	1,634	1,566	-
豚	-	588	540	449	476

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	1月9日	1月8日	(1月累計)
豚	71,900	72,100	288,200
成牛計	4,350	4,770	18,620
和牛雌	990	1,220	4,210
和牛去勢	1,190	1,320	5,160
乳牛雌	950	630	2,870
乳牛去勢	460	560	2,210
交雑雌	310	490	1,890
交雑去	450	530	2,260

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 1月9日

東京	1,532円	(前日 1,494円)
大阪	1,595円	(前日 1,651円)

[豚・全農建値] 1月9日

上	中	取引頭数	市況
663円	634円	1,241頭	急落

と畜 売買	牛 105頭	豚 215頭	牛概況	もちあい
	牛 125頭	豚 124頭	豚概況	反発

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 1月9日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	6,038	-	もちあい
仙台 [中]	636 (637)	594 (618)	312	65	軟調
宇都宮 [地]	612 (661)	589 (615)	1,799	109	急反落
茨城 [地]	662 (661)	645 (643)	1,558	959	もちあい
群馬 [地]	689 (712)	594 (636)	2,716	491	反落
さいたま [中]	666 (698)	628 (685)	249	248	反落
東京 [中]	639 (704)	618 (683)	1,137	1,035	急反落
横浜 [中]	686 (656)	657 (634)	667	667	続伸
山梨 [地]	661 (634)	612 (600)	143	120	反発
浜松 [地]	632 (608)	568 (552)	308	34	上伸
名古屋 [中]	582 (576)	573 (555)	970	228	強もちあい
京都 [中]	543 (-)	543 (-)	75	112	もちあい
大阪 [中]	588 (509)	540 (467)	215	81	反発
神戸 [中]	589 (-)	569 (-)	49	157	-
岡山 [地]	578 (555)	576 (574)	359	301	上伸
広島 [中]	590 (589)	553 (566)	375	26	もちあい
福岡 [中]	634 (601)	604 (563)	552	132	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月2日~1月8日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 567,997 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,059	1,228	1,382	1,219	26,454
うで	691	745	804	744	68,824
ロース	1,026	1,058	1,188	1,076	62,406
ばら	1,098	1,253	1,426	1,272	65,070
もも	712	734	815	744	81,300
ヒレ	972	1,091	1,350	1,108	3,300
セット	943	998	1,024	990	260,643

◇近畿圏 総重量 479,489 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,321	1,350	1,421	1,356	37,839
うで	710	745	780	746	85,954
ロース	1,123	1,264	1,312	1,234	63,652
ばら	1,227	1,318	1,382	1,305	85,761
もも	699	728	761	726	123,059
ヒレ	1,106	1,342	1,359	1,274	6,637
セット	890	990	1,165	1,014	76,587

[食鳥正肉日経相場] 1月8日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	719	774	1,030	8
ムネ	380	438	590	5

[農水省統計情報部食鳥市況] 1月7日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,011	627	550	600	650
安値	727	391	290	360	350
平均	771	428	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### 業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### 畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

### 食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

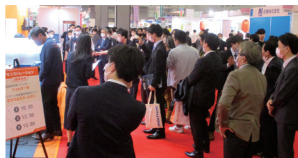
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### イベント

#### 国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### 教材&レポート等

#### あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### 知識を豊かにする

#### 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### 〜食肉のプロフェッショナルを育てる〜シリーズ

#### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ステーションナリー

#### 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995